

## 大通公園を望む窓辺から

### ビヨンド・ミート

副会長 佐古 和廣

日経ヴェリタスという経済週刊新聞がありますが、その11月10日号に植物肉をはじめとする「フードテック（テクノロジー）」の記事があり、その進歩に驚きました。「ビヨンド・ミート」という名前を最初見たときはびんと来なかったのですが、「Beyond Meat」と英語表記されるようになるほど納得。

「ビヨンド・ミート」は2009年創業で、エンドウ豆を主原料にした植物肉が主力製品の会社で、2019年5月にナスダックに上場しました。現在30国以上で販売されており、2019年7～9月期の売上高は約100億円。この会社のことは知っていましたが、その他にも同じように植物を原料とした植物肉の会社が多数あり、最近では牛などの細胞を取り出し、育成する培養肉も開発され、年内にも発売を目指しているとのことあります。

2019年6月、国連は現在77億人の世界人口が、2050年には97億人に達するとの見通しを発表しました。マルサスは『人口論』で、食糧が足りないという制限によって、人口増加は規定されてしまうと述べています。静岡県立大学・学長の鬼頭宏氏も、江戸中期から後期にかけて、およそ1世紀にわたってほとんど人口が増えなかったのは食糧（コメ）の生産量が増加しなかったのが一つの要因であると言っています。これらの論を待たなくても、人口増加が食糧不足を招くというのは常識的に理解でき、多くの人は将来食糧危機が訪れることを危惧していたと思います。しかし、フードテックは人類の食糧危機を救うイノベーションかもしれません。米国コンサルティング会社ATカーニーは、2040年には植物肉と培養肉の合計シェアが世界の食肉市場の60%を占めると予測しています。

米国では植物肉を使ったハンバーガーがテスト販売されているので、米国に行ったらどんな味なのか一度試してみたいものです。

### しろばんば

理事 文屋 学

「しろばんば」とは伊豆半島では雪虫のことです。初雪の降る少し前に出現する雪虫。北海道では冬の訪れを告げる風物詩です。今年のお訪れは10月20日でした。いつものように砂川市立病院裏手にある、貯水池周囲コースをランニングしていると目や口を塞ぐ程の大群に遭遇し、息も絶え絶えになってしまいました。翌日のテレビニュースによると「北海道では平年の10万倍の雪虫が大量発生し、特に函館では吹雪と見間違えるほどに視界がかすみ、交通渋滞で出動した消防車の洗車も一苦労」とのことでした。北海道大学農学研究院の秋元教授によると、一般的に雪虫と呼ばれるのは、体に雪に似た形状の分泌物（蠟）をまとって飛ぶ「トドノネオオワタムシ」ですが、今年大量発生したのは分泌物を持たない「ケヤキフシアブラムシ」であり、大量発生の原因は今年8月、9月に気温が高めに推移したためとのことでした。

皆様は「しろばんば」という小説をご存知でしょうか。旭川市出身の井上 靖が移住した、伊豆湯ヶ島での少年期の思い出を綴った自伝的小説です。私は、昨年同期会で泊まった「白壁荘」で、彼がこの旅館で、この小説を執筆したと偶然知りました。

その後11月10日に初雪を観測いたしました。豪雪地帯の当地ではこれから辛い雪との戦いが始まります。

この稚拙な文章が皆様の目に触れる来年1月頃には根雪となり、翌2月には札幌大通公園では「雪まつり」が始まっていることと思われます。2019年は「台湾高雄駅」や「スターウォーズ」の雪像。そうしてNHKで放映されている「チョコちゃん」の雪像が数体作製されていました。2020年は、チョコちゃんに「ポーッと生きてんじゃねーよ！」と叱られず、「つまんねー奴だなー」と呆れられる程の知識人になりたいと思います（2019年11月26日記）。

